

第94回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2017年4月10日(月) 14時～17時

兼題「囀り」

- 川井素山 ○囀を抜けて御堂の慈顔かな  
木蓮や法事帰りの喪服列  
耕運機反す土追ふ燕かな  
磯桶背に海女の猪首や浜の朝
- 保井寶正 ○花冷や書いてまた消す恋の文  
ゴスペルに喉ふくらませ囀りぬ  
一年の思ひ弾ける桜かな  
翁草桜前線北上中
- 後藤克彦 ○一聯<sup>いちれん</sup>の不揃ひ目刺余りをり  
駅弁を買ひて車窓の花見かな  
八分咲き楽しみ明日の花見かな  
囀りや決まりし枝で日に三度
- 佐久間喬 ○冴え返る峠を越えて街灯り  
春<sup>はやて</sup>疾風 駅を出る人狙い撃つ  
座禅堂小滝の音に囀れり  
倒産<sup>しらせ</sup>の報 相次ぐ春嵐
- 丸山酔宵子 ○白魚の胡麻の目浮かぶ卵とじ  
朝三分夜は七分の花模様  
囀りに着信音が共鳴し  
街灯の下に五瓣の椿あり
- 菊地崇之 ○辛夷見て祈りしチャペル胸に咲く  
四月馬鹿認知症の得意顔  
十月<sup>とひ</sup>十日 共に育ちし夏みかん  
囀りや忘れがたきかの古里

吉田啓悟 ○花吹雪忍びのような猫が来る  
それぞれの息のしめりや春の宵  
春場所の大団円の千秋楽  
囀りにはげまされつつウオーキング

青木英林 ○役目終へ帰途の車窓や春の暮  
心地好き囀りを聴く目覚めかな  
一陣の風がコップに花咲かす  
奇<sup>やど</sup>居<sup>かり</sup>蟲がかくれんぼする潮溜り

佐久間たか子 ○囀りや児らのさえずり運び来る  
花吹雪浴び抜襟の異人かな  
囀りや深呼吸する空の碧  
川下り浮いてかくれて花筏

山本草風 ○舟浮かべ春を貪りひもすがら  
三月や家を飛び出し花愛でる  
老夫婦為すこともなく桜待つ  
穏やかに大人囀り平和かな

金森純女 ○鯉五郎恋せよ我もひとりなり  
幼子や沈丁の香に歩み寄り  
裏庭にぽっとはじける辛夷かな  
囀りやあたいこないだ別れたの

佐伯兵庫 ○囀りや届かぬ想い過疎の里  
芽柳にPM2・5降り注ぐ  
花見路に屋台の臭い競ひ合う  
宴済み空き缶つぶす春の夜

渡辺鯨波 ○囀りや妻の小言を聞き流す  
囀りや電子カルテに向かう医師  
検診は異常値ばかり万愚節  
ふらここや不登校児宙に舞ふ

次回「萩句会」

日時 2017年5月8日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『薄暑』一句 当季雑詠三句 計四句